

クマをはこわなで捕獲等する際の ポイントと留意点

令和8年3月

環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室

1. 本レポートの目的

- 近年、多くの地域でクマが人の生活圏に侵入し、人身被害が増加しています。これは、人の生活圏周辺までクマの分布が拡大し、人の生活圏周辺に定着あるいは高い頻度で利用する個体が増えていることが一つの原因と考えられています。
- クマの人の生活圏への出没や出没に伴う人身被害等を防止するためには、出没抑制対策の効果が得られる個体数に抑えるための捕獲や出没を繰り返す個体の確実な捕獲が必要です。
- このようなクマの出没を防止等するための捕獲として、全国ではこわなによるクマの捕獲が実施されており、今後も実施されるにあたり、各地域の捕獲者の情報をもとに、クマを捕獲するための[はこわなの選び方](#)と[はこわなによる捕獲の手順](#)について、[ポイント](#)と[留意点](#)をまとめました。

※本レポートでは、人身被害等の防止のための捕獲、個体数管理のための捕獲を想定しており、市街地に出没した場合の捕獲は想定していません。

※クマをはこわなで捕獲する場合は、鳥獣保護管理法に基づき、自治体の捕獲等の許可を得ているか、指定管理鳥獣捕獲等事業として実施する必要があります。

2. はこわなの選び方

はこわなとは、金属板などで箱型に作ったわなで、箱の中に鳥獣が入り込んで、内部の餌をくわえる等により、しかけが作動して扉が閉まり、箱の中に鳥獣を捕獲する装置です。クマを捕獲するために使用するはこわなの構造は、主に檻タイプとドラム缶タイプの2タイプがあります。また、わなの作動方式は、主にクマが餌を引っ張る、踏み板を踏む(図1)、蹴り糸に体が触れる、赤外線センサーが感知する方式の4通りがあります。それぞれの特徴を理解した上で、はこわなを選定してください。

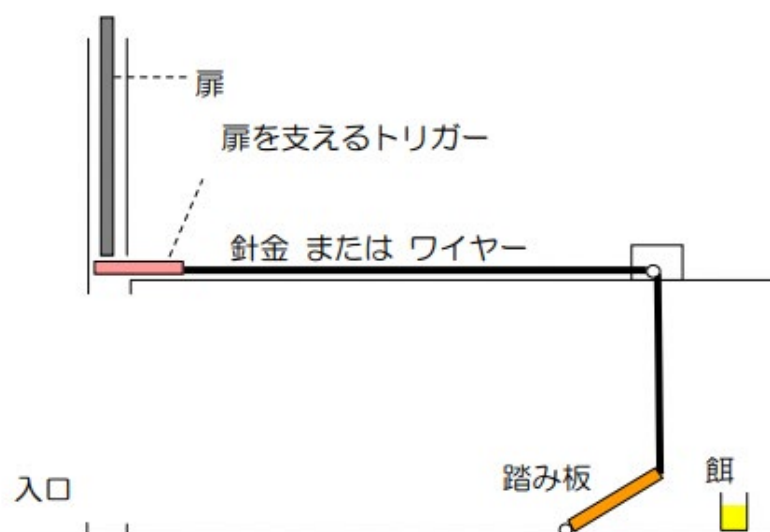


図1 踏み板式のわなの構造

(1) はこわなの構造別の特徴

檻タイプ



(北海道ヒグマ捕獲テキストより)

ドラム缶タイプ



	檻タイプ	ドラム缶タイプ
構造	鉄筋が格子状になっているもの	<ul style="list-style-type: none"> 鉄板を円形に成形したもの 2～3個を連結させた構造のものが多い 1連のみで使用可能なものもある
サイズ (cm)	<p><u>ヒグマ</u> (幅) 75～180×(高) 90～180×(奥行) 250～300</p> <p><u>ツキノワグマ</u> (幅・高) 90×(奥行) 180</p>	<p><u>ヒグマ</u> (直径) 65～80×(奥行) 250～300</p> <p><u>ツキノワグマ</u> (直径 60～65 (奥行) 180～200</p>
特徴	<p>⇒【わなのサイズを考える Point!】も参照</p> <ul style="list-style-type: none"> わなの内部の様子が分かるため、クマの大きさ・頭数等が遠くからでも確認しやすい 止めさしがしやすい 	<ul style="list-style-type: none"> クマの爪や歯がかかる場所が少ないので、わなの破壊の危険性が低く、クマのツメや歯を痛めることが少ない 内部が暗いため、捕獲されたクマが激しく暴れることが少ない 通気性が悪いため、夏は捕獲されたクマが熱中症になる危険性がある
適した状況	捕殺を目的とした場合(銃による止めさし)	<ul style="list-style-type: none"> 捕獲されたクマの損傷が少ないため、移動放獣に適する 檻タイプに比べて軽いものが多く、人力での運搬も可能であるため、車両での運搬が難しい場所に設置可能
使用時の留意点	<p>捕獲されたクマが内側から鉄筋を曲げたり、外したりする危険性があるため、強度を上げる工夫が必要</p> <p>一方で、強度を上げる工夫(例:鉄筋を太く・格子幅を狭くする等)を行った結果、総重量が重たくなると、車両でなければ運搬しづらくなる</p>	隙間が少ないため、銃での止めさしは難易度が高い

⇒【強度を上げる工夫(例)】【実際に使用されているわなの規格(例)】も参照

📢 わなのサイズを考える Point !

わなのサイズは以下を考慮して決定する。

●クマが身体を伸ばしてもわなから身体の一部が出ないサイズであること

クマが誘引餌を取る際に、後ろ足などの身体の一部をわなの外に出すことで、落ちてきた扉を支え、その隙間から逃げるクマがいるため、クマが身体を伸ばしても、わなから身体の一部が出ない十分な奥行を確保できるわなのサイズにする必要がある。

●運搬に使用する車両の大きさに収まるサイズであること

はこわなの運搬に使用する車両（軽トラック、クレーン付きトラック等）の荷台の大きさに収まるサイズにする必要がある。

📢 強度を上げる工夫（例）

縦の鉄筋を横の中板に通して溶接することで、捕獲されたクマが鉄筋を曲げて壊すことを防いでいる例がある。



（北海道ヒグマ捕獲テキストより）

📢 実際に使用されているわなの規格（例）

地域	鉄筋太さ	鉄筋の間隔	その他（工夫・留意点等）
A	直径9mm以上	60mm以下	<ul style="list-style-type: none">止めさしをしやすいよう、扉から約990mmまでは鉄筋の間隔を70mmとしている。それより奥はわなの外側から誘引餌をとられないよう、45mmとしている捕獲されたクマが暴れた際にワイヤーが痛み、交換が必要になる場合があるため、踏み板とトリガーを連結するワイヤーにワイヤーガードを取り付けてむき出しにしないようにしている。
B	直径13mm	65~70mm	<ul style="list-style-type: none">はこわなの奥部分に鉄板を貼り、外側から誘引餌をとられないよう工夫している。また、鉄板を貼ることで、奥部分が少し暗くなり、クマが入りやすくなる効果も期待できる。
C	直径13mm* ※：10mmで脱出した事例あり	90mm	<ul style="list-style-type: none">はこわなの奥部分に目の細かいメッシュ*を貼り、外側から誘引餌をとられないよう工夫している。※クマの手がわなからはみ出さないため捕獲者のケガが防げる他、わなに設置したICT機器の損傷を防げるメリットもある。一方で、デメリットとして、誘引餌の確認や交換がしにくいこと、メッシュのため溶接面積が小さいことから、溶接強度が弱くメッシュがはがされる場合があること、はがれたメッシュを修繕しないと運搬時にケガにつながる恐れがあること、止めさしがしにくいこと等が挙げられる。

⚠ 注意!

- イノシシ・シカ・サル用に作られたはこわな（檻タイプ）は、クマに対しては素材や溶接の強度が足りません。クマの捕獲を想定して製作されたわなを使用します。
- 長期間野外に放置されたわなや新しくてもクマの捕獲があったわなは、鉄筋の錆び・溶接部分等の劣化・破損している恐れがあります。適切に管理・補修されたわなを使用します。

(2) はこわなの作動方式別の特徴

	餌を引っ張る	踏み板を踏む	蹴り糸に触れる	赤外線センサー
構造	クマが誘引餌を引っ張ることでワイヤーが引っ張られトリガーが外れ、扉が閉じる	クマが誘引餌手前の踏み板を踏むことでワイヤーが引っ張られトリガーが外れ、扉が閉じる	誘引餌手前の蹴り糸にクマが触れることでワイヤーが引っ張られトリガーが外れ、扉が閉じる	はこわなにクマが入ったことを赤外線センサーが感知し扉が閉じる
特徴	<ul style="list-style-type: none">・ 構造が単純で扱いやすい・ 踏み板や蹴り糸を避けるクマの捕獲に有効・ トリガーの強さを調整することで中型哺乳類等の錯誤捕獲を防げる・ わなの奥行を考慮し誘引餌のサイズを検討する必要がある	<ul style="list-style-type: none">・ 構造が単純で扱いやすい・ 踏み板の荷重設定により軽い動物（中型哺乳類等）の錯誤捕獲を防げる	<ul style="list-style-type: none">・ 構造が単純で扱いやすい・ 蹴り糸の高さを調整することで中型哺乳類等の錯誤捕獲を防げる	<ul style="list-style-type: none">・ 設定を理解するのに時間を要する・ トリガーの強さや踏み板の荷重を調整する手間がかからない・ 奥まで入らなくても作動する・ センサーが反応する距離を調整することで中型哺乳類等の錯誤捕獲を防げる

3. はこわなによる捕獲の手順

はこわなによる捕獲は、以下の手順に沿って行います。各手順におけるポイントや留意点を参考にしてください。

① 場所選び

最近の目撃・出没や被害等の情報をもとに、大まかな設置範囲（地域）を選定します。その後、設置範囲の中で捕獲に適した場所を選定します。

捕獲に適した場所を選定する際の Point !

- 安全への配慮・作業のしやすさ
 - ✓ 車でアクセス可能（わなの搬入・搬出、捕獲個体の搬出、捕獲者の安全なアプローチ）
 - ✓ 設置に十分な面積の平地、わなを固定するための立木やL字杭などを深く打ち込める地面等^{※1}（安定性、扉の正常な開閉）がある。
 - ✓ 人目につきにくい、一般人の利用が少ない（住民等の安全確保）

- ✓ 遠くから様子が見える（捕獲時・見回り時に安全を確保したうえ状況を確認）。ただし、広いオープンスペースの中央に設置するとクマに警戒されわなに入りにくいいため、ヤブから離しすぎないこと。
- ✓ 住居集合地域等^{※2}において銃器で止めさしを行えるのは、鳥獣保護管理法上、緊急銃猟に限られる。なお、鳥獣保護区や特定猟具使用禁止区域は鳥獣保護管理法第11条に基づく捕獲等（登録狩猟）では銃猟が禁止されるが、自治体（国指定鳥獣保護区である場合には地方環境事務所等）の許可を受けて行う捕獲等や指定管理鳥獣捕獲等事業、緊急銃猟は鳥獣保護管理法上、上記の禁止の対象となっていない。
- ✓ 銃器で止めさしをする場合は、跳弾を防ぐためバックストップとなる地形が確保できる。
- ✓ 特にドラム缶タイプは、捕獲されたクマの熱中症予防のため、夏は直射日光が当たらない場所とする。

■ クマの捕獲しやすさ

- ✓ クマの痕跡が多い（獣道、食痕、足跡、糞等）※自動撮影カメラ等でクマの利用状況を把握する。
- ✓ 可能な限り木陰に設置した方が捕獲率は高くなる傾向がある。

※1：ツキノワグマについては、はこわなが十分重い場合は固定しない地域もあります。ドラム缶タイプは檻タイプに比べて軽いため、固定が必要になります。また、立木がない場合、杭が打ち込めない場合の対応については、【②はこわなの設置➡捕獲開始】を参照

※2：鳥獣保護管理法において、住居が集合している地域または広場、駅そのほか多数の者の集合する場所



注意！

はこわなを設置する際は土地所有者（管理者）の許可等が必要です。

2 はこわなの設置➡捕獲開始

捕獲に適した場所を選定したら、はこわなと誘引餌を設置し捕獲を開始します。



はこわなを設置する際の Point!

- ✓ クマが出没しているルート付近に設置する。クマが利用する獣道の近くに設置すると良い。
- ✓ はこわなの誘引効果が下がるため、周囲の誘引物の除去等を行う。例えば、カキ等の放棄果樹がある場合は木の伐採や果実の除去、木に登れないようにする対策（トタンを木に巻いたり電気柵を設置する等の対策）を実施し、農地等には電気柵を設置する^{※1}。クマがその場に誘引されているうちにはこわなを設置することが重要！

※1 被害発生の要因となるもの（放棄果樹や農地等）のすぐ近くにはこわなを設置する場合：電気柵等の対策を行うことで、クマがその場所を忌避し別の場所に移動する可能性がある。常にはこわなや当該地周辺の出没状況を確認することが重要となる。

- ✓ トリガーは適度な強さに調整する。ストッパー等の部品が正常に稼働するか確認する。
（強すぎる：クマに餌だけ取られてしまう。弱すぎる：他の動物によりわなが稼働し、クマの捕獲効率が低下する）

- ✓ 十分な重量がないわなについては、捕獲されたクマが暴れてわなが倒されたり、わなの外からクマに揺らされて扉が落ちたりすることを防ぐため、立木や杭に固定する^{※2}。
(※2：特にヒグマの場合は、立木や杭での固定が必要となる。立木がなく、杭が打ち込めない場合は枕木状のものをわなの下面に設置し転倒を防ぐ等の工夫する。)
- ✓ クマの嗜好性が高い餌を誘引として使用することが最も重要！誘引餌はクマの身体が完全にはこわなに入らないと取れないサイズや設置位置とする。
- ✓ 自動撮影カメラを設置し、わな周辺にクマが来ているか、わなに対する反応等を確認できるようにすることで、より効果的な設置方法を工夫することができる。
- ✓ はこわな周りの草刈りは、見回り時の視認性を確保しつつ、警戒されないため広く刈りすぎないようにする。

注意！

子グマだけが捕獲されると親グマは子グマの近くから離れず、また、興奮した様子となることがあり、非常に危険です。親子で出没していることが分かっている場合には、複数のわなを並べて設置することを検討します。母グマも同時に捕獲される可能性が高くなります。

誘引餌を選ぶ Point！

地域や季節によりクマの採食物は異なるため、状況に応じて嗜好性の高い餌を選びます。周辺に自然由来の採食物が豊富にあると誘引餌の効果は低下します。特に、秋に堅果類が豊作の場合は誘引餌によるわなへの誘引効果は低下するので、留意が必要です。誘引餌は捕獲者が地域のクマの状況に合わせて様々な工夫をしています。いくつか例を紹介します。

誘引餌	特徴	留意点
ハチミツ・巣蜜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手に入りやすい ・ 強い匂いのものを選ぶと良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バケツ等に入れる際は上部に目の細かいネットをかぶせハチ等にとられないようにする。 ・ 気温が低くなると誘引効果が下がる。アルコールを混ぜると匂いが飛びやすい。 ・ スズメバチを誘引する可能性がある。
農作物・果樹	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手に入りやすい ・ 被害が発生している作物や果樹(カキ等)の場合、誘引効果が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 捕獲が失敗した場合、農作物の味を学習してしまう可能性がある ・ 他の動物(イノシシ・中型哺乳類等)も誘引されるため、錯誤捕獲が発生しやすい。 ・ 当該地域で被害がまだ発生していない種類の作物は、新たな餌をクマに覚えさせることにつながるため避ける。
米ぬか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安価、手に入りやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の動物(イノシシ・タヌキ・ネズミ等)も誘引されるため、錯誤捕獲が発生しやすい。 ・ 地域によっては、新たな餌の味を覚えさせることにつながるため避ける。

※上記の誘引餌を単体で使うのではなく、「ハチミツと米ぬか」「ハチミツと酒粕」「米ぬかとりんご、食パン」を混合させたものを使用するなどの工夫を行う地域も多いです。

注意！

- はこわなの設置について、地域住民と情報共有をします。子どもが近づく危険性がある場所については、十分な周知が必要です。(いたずらや捕獲の妨害行為、SNS への投稿等を回避するため、詳細な設置場所を不特定多数に共有しない場合もあります。情報共有の内容・範囲・方法については、市町村と捕獲者で調整しましょう。)
- 地域住民等がはこわなに近づかないよう、注意喚起の看板等を設置します。看板等は住民等が使用する道路からはこわなにアクセスするルート上に設置します。※はこわなの近くに、許可の内容を記載した標識を取り付けます。

【注意喚起看板（例）】

注意！ クマを捕獲するためのはこわなを設置しています！

- ・ 最近、周辺でクマの出没や被害が発生しているため、捕獲のためのはこわなを設置しています。
- ・ 誘引物を使用しているため、付近にクマがいる可能性があります。
- ・ はこわなに近づくのは危険です。
- ・ クマを目撃した場合や気になることがあれば、以下へご連絡ください。

連絡先：〇〇市〇〇課 担当者：〇〇

電話番号：0000 - 000 - 000

3 見回り・管理

毎日見回りを実施します。できれば、人の活動が始まる前の早朝※¹が好ましいです。わなの稼働を遠隔から確認できる自動通報装置や通信機能付き自動撮影カメラ、ドローン等を使用する場合でも、毎日ではないものの定期的に現地において見回りを行います。クマを捕獲するには、わなに対するクマの接近状況や反応を把握し状況に応じた対処を行うこと（誘引餌の交換等）や、わなの誤作動を防ぐためのわなの管理（わなの動作確認等）が重要です。一定期間※²設置を続けても、クマの接近がない・捕獲がされない場合は、どのような工夫ができるか検討します。自動撮影カメラを設置してクマの誘引状況やわな周辺での行動、わなに対する反応を確認することで、誘引餌の種類やはこわなの作動方法の変更、設置場所の変更等の判断がしやすくなります。

※1：早朝はクマの行動が活発な時間帯でもあるため、遭遇には十分注意します。

※2：2週間程度～4週間程度と地域・季節等により様々です。

注意！

- わなに近づく際は、安全が確保できる場所・距離からわなを観察し、わなの中や周囲にクマがいないことを確認します。双眼鏡等を用いると遠方から確認しやすいです。接近中も周囲に注意を払います。可能であれば車両で接近します。見回りは必ず複数名で実施します。
- 近づく際は、猟銃に加え安全装備（ヘルメット、クマ撃退スプレー、プロテクター等）を装着します。特にクマ撃退スプレーは猟銃を持参していたとしても、とっさの対応の際に重要となります。

なかなか捕獲されない場合の対処

わな周囲のクマの足跡や自動撮影カメラの撮影状況から、クマがどの程度わなの近くまで来ているのか把握し、以下のような工夫をする。

■ 近くまで来ているのにわなに入らない場合

- ・ わなの周囲に誘引餌を撒きすぎている、餌となるものがある場合は除去する。
- ・ 誘引餌の効果が低下している場合は新しくする*。
- ・ 誘引餌の量を増やす。ただし、誘引餌のサイズが大きくなりクマが奥まで入らずに餌をとれるようになっていないか注意する。
- ・ 足跡等を考慮し、はこわなの入り口の向きを調整する。
- ・ 誘引餌の種類を変更する。季節や周辺の採食物の状況や変化に応じて、より誘引効果の高い餌を検討する。
- ・ はこわなの奥まで入らない場合は、作動方式を他の方式にする等の変更をする。

■ わなの近くまで来ていない場合

- ・ 他の誘引餌を試す。
- ・ 痕跡等から別の場所への移設を検討する。

※米ぬかの場合はある程度時間が経過し発酵することで誘引効果が高まります。誘引餌の種類により適切な交換時期は異なりますので、留意が必要です。

4 捕獲 → 止めさし

自動通報装置や見回り時にクマが捕獲されていることが確認された場合は、止めさしの作業に移ります。本レポートでは、銃器による止めさしを想定しています。周りの様子をよく観察したうえで止めさしに使用する銃器を携帯して接近を開始します。わなの扉が落ちていてもクマが脱出する可能性があることから、十分に注意します。

はこわなに接近する際の留意点！

- ✓ 周囲に他のクマがいないか安全が確保できる場所から確認し、接近中も周囲に注意を払う。
 - ・ 子グマのみが捕獲されている場合：母グマが近くにいる可能性が高く大変危険なため、周囲にいる母グマに発砲できる準備をして接近する。
 - ・ 母グマのみが捕獲されている場合：わな周辺に子グマがいることが多い。不用意に捕獲わなに接近することで子グマが逃げると、地域にとどまり、そのクマが出没を繰り返し問題が大きくなる事例が報告されている。まず子グマを捕獲する。
- ✓ 扉が完全に閉じていること、ストッパーが確実に作動していること、わなの破損がないことを確認する。可能であれば捕獲されているクマの頭数を事前に確認できると良いが、母グマの陰に子グマが隠れており把握できない場合もある。双眼鏡等を用いると遠方から確認しやすい。
- ✓ 近づく際は、安全装備（ヘルメット、プロテクター、防護盾等）を装着することが望ましい。とっさの対応のため、クマ撃退スプレーの携帯は必須となる。
- ✓ 大人数で近づくときクマを興奮させたり、人の安全確保が困難になるため、必要最低限の人数で対応する（ただし、安全管理上、一人での対応は避ける）。

近づき過ぎないことが重要！クマの動きをよく確認し、はこわなの周囲の草が倒されている場合や土が掘り返されている場合は、捕獲されたクマの手が出る範囲である可能性が高いため、それ以上は近づかないよう注意する。



止めさしの際の留意点！

- ✓ はこわなでの銃による止めさしの際、最初に狙う部位は頸部を検討する。胸部（肺・心臓）を撃つと死亡までに時間がかかる場合があり、頭部は弾丸がわずかに脳から外れてすぐに死なない場合がある。
- ✓ 跳弾に注意する。

跳弾を防止するための対応

- ・ 土等の柔らかいものでできた地形をバックストップとする。
- ・ バックストップと弾丸が衝突する角度を可能な限り 90 度に近づけるため、撃ちおろしとする。
- ・ 銃口はなるべくはこわなに差し込まず※（クマにより銃がはたかれる等の危険を回避）、かつ離し過ぎず（鉄筋による跳弾の回避）構え、格子の隙間からバックストップに向けて発射する。
- ・ ドラム缶タイプの場合は、檻タイプと比較して安全に近づけるため、電流やナイフ等を用いた止めさしを検討し、安全に作業をするため麻酔銃や吹き矢を用いて麻酔により不動化したのち、処置することも考えられる。ただし、麻酔による不動化や電流による止めさしは別途ノウハウが必要なため、実施について慎重に検討する。

- ✓ 身の回りに最新の注意を払う必要がある（負革をクマに持っていかれないよう外しておく等）。

クマをはこわなで捕獲等する際のポイントと留意点

2026（令和8）年3月

環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室
〒100-8975 東京都千代田区霞が関1丁目2番2号
電話：03(5521)8285

業務請負者 一般財団法人 自然環境研究センター
〒130-8606 東京都墨田区江東橋3丁目3番7号
電話：03(6659)6310（代表）